

会議録（会議結果概要）

名称	令和５年度第１回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会
開催日時	令和５年１１月２７日（月）　１４：００～１６：００
開催場所	各務原市役所　本庁舎　４階会議室４－３・４－４
出席者	富樫幸一会長、阿部雄介委員、五島伸治委員、近藤亜矢子委員、林ゆり委員、鵜飼明男委員、古田宏司委員、今道雄介委員、玉置暖委員、戸高翼委員、松原正隆委員 ※欠席者：各務英雄委員、別宮理恵委員
議題及び 審議・協 議結果等 の概要	次第 １　開会 ２　各務原市長挨拶 ３　委員及び事務局紹介 ４　会長の選出 ５　議事 （１）懇話会の運営について （２）第２期しあわせ実感かかみがはら総合戦略の一部改定について ６　その他 ７　閉会
	１　開会 事務局より配布資料の確認 ２　各務原市長挨拶 【市長】 本日はお忙しい中、第１回目となる、しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会にご出席を賜り誠にありがとうございます。皆様のお顔を見ておりましても、いろいろな立場、分野でご活躍いただいております、こよなく各務原市を愛し、元気を与えていただいている、そういった方々にお集まりをいただきました。 この地方創生懇話会につきましては、国のデジタル田園都市国家構想というキーワードが一つのきっかけとなっています。各務原市も人口減少という大きな課題にすでに直面しており、平成２２年に一旦人口が１５万人を超えた時がありましたが、それ以降は年々減少しており待ったなしの状況です。すでに人口が減少している自治体の中では、比率的には小さな数字ではありますが、やはり人口減少は進行しています。 各務原市はよく、ほどよい田舎、住み心地がいいとよく言われているところであり、また、本日の新聞でも市民の方の年間平均所得が県内４２市町村のうち４位という結果がでています。過去１０年間で、各務原市は４位以内を維持していることから、市民の皆さんが弛まぬ努力と、労働意欲を持ちながら職務についていただ

いている結果かと思います。

デジタルというものが日に日に進んでいく最中におきまして、各務原市も遅れをとることなく活用しながら、市民の皆さんにさらにしあわせを実感していただけるようなまちづくりをしていきたいと思っております。

本日お集まりいただいた皆様方は、各分野、各地域、あるいはいろいろな知識を持たれた方々ばかりですので、忌憚のないご意見を賜りながら、本会を実りのあるものにしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3 委員及び事務局紹介

4 会長の選出

会長に富樫委員を選出

5 議事

(1) 懇話会の運営について

《事務局より説明》

《質疑意見》

【委員】

- ・オンラインでの公開の予定はしていないのか。

【事務局】

- ・基本的にはこちらに来ていただくかたちで進めていく。

(2) 第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略の一部改定について

《事務局より説明》

《質疑意見》

【会長】

- ・皆さんからご意見やご質問をいただきたい。ひと、まち、しごとの順番でそれぞれ一言ずつコメントをお願いする。

【委員】

- ・子育て、教育、地域自治の中で子どもがどう育っていくかという問題で、コロナ前後で環境が大幅に変わってしまった。KPIの進捗状況を見ても、コロナ前に設定したこの数字が現在の目標値として合っているのかとも感じる。コロナにより子どもたちが受けた影響という点でも、課題はたくさんあり、行政に助けてほしい部分はたくさんある。
- ・例えば自治会、子ども会、PTA等の任意団体について、行政に仕組みづくりを助けてほしいという話をしても、任意団体だからといって手を離されてしまう

と、消滅の危機になってしまうため、もう少し行政にお手伝いいただきたい。

- ・総合戦略に追加したデジタル要素「コミュニティ活動への支援」で、「自治会の担い手不足の解消や負担軽減を図るため、自治会活動のデジタル化を推進する」と記載してあるが、任意団体に対しても自治体は手伝いをするということが盛り込まれるなら、他のところにも仕組みづくりなどにおいて、もう少し前向きに注力してほしいという気持ちを持っている。

【会長】

- ・例としてはどんなことがあるか。

【委員】

- ・子ども会、PTA の組織も昔の方のままだと継続できない。今の母親や子育て世代は、昔は専業主婦だった女性が子ども会を担っていた時代とは違い、土日休みの現役世代が少なく、新入層に自治会長になってもらっていたりもする。既存の仕組みのままやっていくには無理が生じてきているので、しくみを現代的なものに変えていくために、どのように組み立てていけばいいのかという話し合いをしていかなければならない。

【会長】

- ・そのような悩みは、どこの自治会、PTA も抱えていると思う。

【委員】

- ・PTA、自治体、子ども会など、様々な任意団体というのは、現在は尻すぼみというか、局面が大きく変わってきている。特にコロナで人々が離れていったなかで、様々な団体が頑張っているが、それぞれでやっても埒があかない時代になっている。ある他の団体が子ども向けのイベントを実施していたが、開催情報を知っていれば学校を通じて子どもに紹介できたものの、お互いの活動がわかっていないため周知できなかったということもあった。
- ・行政レベルでは難しいかもしれないが、市民レベルで、団体の代表者が交流する機会や、代表者を集めた情報交換会などの、横の繋がりをつくれたらよい。そういったものがないと、各々の団体が苦しくなっていくばかりである。例えば今日参加している団体でも、何をやっているか知らない団体もあるが、知れば、お互い一緒になってやれることはきっとある。そういう横のつながりができるとよい。
- ・らららチケットは還元率が他の市よりもよいと話題になっていたが、子育てに関しては、よその市町に自慢ができるような施策がない。保護者と話していても隣の町は給食費が無料とか医療費が無料というので引っ越したと聞いた。保護者はそういうものに敏感で、そういった子どもに対するメリットで、引っ越し人はよくいる。
- ・高校卒業まで1人5000円補助しているところもある。お金じゃないというもの、子育てしていると、お金は切りはなせないもので、そこに魅力を感じる人もいる。各務原でも子育てのメリットとなる施策や、子育てしやすい環境が

整っていることをアピールできれば、子育て世代が呼び込めるのではないか。

【会長】

- ・PTAは、よく実働部隊はほぼ女性で、会長だけ男性というのがありがちだが、各務原はどうか。

【委員】

- ・先ほど尻すぼみといったものの、実は各務原ではPTAは盛り上がっており、ほとんどの学校の会長は立候補で決まっている。組織のあり方をここ何年かで変えたことが、盛り上がった要因だが、時代の変化とともに様々なものを変えなければいけないタイミングだと感じている。
- ・学校のイベント等には、お父さんも来ている。逆に、共働きの広がりにより女性が出られなくなってきた。仕事や、祖父母と同居していないため、子どもを預けられないという原因がある。

【委員】

- ・PTAは何を変えたら盛り上がったのか。

【委員】

- ・各学校があって、その上に各務原市の連合会があるが、連合会の会長や副会長は、どこかの学校の会長がその年の連合会の会長になると決まっており、勝手に持ち回りで決まるというのがPTAのしくみが多い。各務原市では5年ほど前に持ち回りを全部撤廃して、各学校の会長とは関係なく連合会の役員は立候補で決めることと変更した。私も学校の会長ではない。そうすると仲間内でできることから立候補が多く出て、全体としても盛り上がった。

【委員】

- ・企業の立場として、隣の関市には工場参観日があり、先日は大阪の製造業のまちである八尾市の方へ「みせるばやお」という団体の視察に行った。市としては企業が元気になればいろんなものが集まってくると考え、視察に行っている。ただ、「各務原らしいもの」は一体何なのかと考えている。大阪の八尾や、関市の工場参観日などと同じようなことをしても仕方がないので、何か各務原市らしいもので市を盛り上げる方法を検討している。その中の一つとして、ハローワークに来る方に見せるワークショップを提案した。ハローワークに職探しに来た方で、ただ書類や画面を見るだけの職探しよりも、実際作っているものを見せたりできれば面白い。ワークショップも様々なやり方があり、子ども向けばかりではなく、大人向けのワークショップがあってもいいのではないか。

【委員】

- ・今、市内の企業は工場見学などをあまりやっていないのか。

【委員】

- ・オープンに誰でもどうぞという企業はまだないので、やりかたを検討している。同じようなことをやってもつまらないかもしれないが、とりあえずやって

みないと何も起こらないというところで、やりながら少しずつ変えていくことを今考えている。

【委員】

- ・たまたま関市からお声がけいただき、関市の工場参観日の運営事務局の企画委員をやっていたことがあるが、関市は元々工場同士の繋がりがあり、悩みが共有されていた。前の世代は、自社の技術は絶対に公開しないという方針だったが、次世代に継承されたときに、もっと横の繋がりがあった方が良くなり繋がりが始め、お互いの悩みが結構似ていたというところから工場参観が始まり、何年も続いているのだと思う。各務原市内では商工会に参加している企業同士で悩みの共有や、市からの援助がなくても何かやろうという動きが出ているのか、何か市からのきっかけがあればやりたいなという状況なのか、どうなのか。

【委員】

- ・いろいろやりたいとは思っているが、きっかけがない。今は産業政策課や商工会議所に音頭をとってもらっている。各務原市内にある企業同士も、社長の顔は知っていても何をやっているかわからないというところが本当に多い。まずはみんなが知り合って、お互いに会社を訪問し合って、お互いに何を困っているか、そういうのを共有して、その中で積み上げていけないかを検討しているところ。

【委員】

- ・テーマが決まった集まりではなく、テーマフリーの場を作ろうということで、高校生、経営者、移住者とどんな人が来てもいい交流の場として「寄り合い」というイベントを7年やっている。そこでは、移住者の方と多く出会うが、移住者が求めているものは、友達がいない、繋がりがいない状態から、まちを知りたいというものが多い。その人たちがつながってイベントが開催されたりというのを目の前で見てみると、数字的に人口が減っている状況と乖離していると感じている。各々抱えている課題に対して、横の繋がりがあればお互いが解決しあえることもあると思う。産業の分野では、良くも悪くも各務原市の産業の中心は航空宇宙産業だが、生活の中でその実感を得ることはあまりなく、航空産業があるから、その財源を持って僕らは何かを受けているはずなのに、それが実感として無い。あの会社があるからうちで過ごしやすいという実感が湧きづらいという疑問は感じている。そういうものが生まれてきて、地元が応援する企業という感じが作れたら素敵だと日々思っている。

【委員】

- ・航空産業だと、うちの会社で部品を作っているとあまり言えないところがある。

【委員】

- ・私たちは、選挙に皆で行こうという啓発を、市役所と一緒にまちづくり委員会としてやっている。この前は学園祭で、選挙について伝えるために模擬投票を

やった。選挙の堅いイメージや、若者が感じるハードルがある中で、わかりやすく選挙を伝え、若者に普及させる活動をしている。

【会長】

- ・周りの反応はどうか。

【委員】

- ・お母さんやお父さんたちに子どもを連れてきてもらうことができ、お客さんも絶えることはなかった。選挙のハードルを少し低くできたという実感はある。

【委員】

- ・なぜそのような活動をしようと思ったのか。

【委員】

- ・大学の事務の方に勧められて入ったのがきっかけだが、選挙離れとよく言われるなかで、自分は必ず選挙には行こうと考えていたので、みんなにも選択せず
に後悔して欲しくないという思いからこの活動をしている。

【委員】

- ・団体として目指しているものは何か。例えば投票率のアップとか。

【委員】

- ・若い人たちの投票率アップを目的としている。選挙の日程などを知ってもらって、選挙に参加してもらおうというもの。
- ・教育学部の生徒として言いたいこととしては、資料の 8 ページに保育士の業務効率化があるが、これはどこの市町村でも言われていることである。自分も実習に行って実感したこととして、大学では保育計画案や、指導計画案などをデジタルで作れるようにしようとなっているが、いざ実習が始まると全部手書きだった。手書きでは A 4 用紙の表裏を作るだけで何時間とかかり、深夜まで作業をして、また次の日の実習に行くということがあった。保育士の業務効率プラス保育学生の業務効率という面で、デジタル化が進めば、保育士や学校の先生を目指す人にとって、ハードルが低くなると思うので、ぜひ推進してほしい。

【会長】

- ・次は「しごと」の関係の方にお問い合わせしようと思っている。ご意見いかがですか。

【委員】

- ・我々の施設は、集積しているにも関わらず交流がなく、先ほど話にあったように隣が何をやっているかわからないという状態である。そこで来年度は、関市の工場参観日と同様のものの実施を検討している。工場を見てもらうことで、人手不足になっている企業も自社の技術を知ってもらうことができる。そうやってオープンな雰囲気を作ろうと、キーマンとなる人を探しつつ交渉を進めているところ。
- ・他社との繋がり、人間同士の繋がりは大事なので、例えば月に 1 回テクノプラザのレストランで昼食を食べながら会社の紹介などの交流ができればと考えている。将来的にはビジネスマッチングまで持っていきたい。

- ・高校生と企業とを繋げたい。企業はなかなか高校生を採用できず人手不足という話を聞く。高校生は半分以上が進学するが、実は企業は高卒の方が欲しいというニーズがあるため、高校生と企業とで、ロボットコンテストを実施できないかと策を練っているところ。
- ・高校の先生に聞くと、中学生の段階でどこの高校へ進学するか決めているため、中学生では遅いという話であった。そのため、今度は小学生をターゲットにして、小さいロボットづくりを体験させようと考えている。とにかくものづくりの現場を見てもらい、体験して、ものづくりの面白さを知ってもらい、地元で生まれて地元就職するという流れを作っていきたい。
- ・我々も人材育成をやっているが、ハローワークと連携して、離職者を半年間訓練して、企業に勤めさせる取り組みをやっている。企業も人材を求めているが、課題としては、研修に人を集めようとしてもなかなか集まらない。そのギャップを埋めるために、現場を見てもらう取組をしていきたい。
- ・人と仕事の好循環という話があったが、各務原市に仕事がないと企業も来てもらえない。仕事とセットで人を連れてくるというのがすごく大事だと思う。これからは、いい仕事があるということと、人と人とのつながり、これが一番大事であると考え、今回の改定の趣旨に私は賛成している。

【会長】

- ・まちづくりでいうと、メディアの視点からはどうか。

【委員】

- ・今回の改定の内容には、非常に賛成している。10年後はこういうものができないと、取り残されるというのは我々の業界でも言われており、非常にいい枠組みである。
- ・先ほど話にあった、人が集まらない、協力してくれないという課題には、強制されることがなくなれば役員さんはストレスがなくなると思う。デジタル田園都市を推奨するとともに、このように目に見えないところも、各務原のいいところ、住みやすいところとして進めてもらえるといいと、今日の中身を聞いて感じた。
- ・隣の企業が何をしているのかわからないという問題については、我々の放送の中で商工会通信というものづくりの番組を、他のエリアでは制作している。そういうものを通じて地域情報のコミュニティとしてやれるところはやっていきたい。

【委員】

- ・各務原市はかなり住みよいまちで、財政的にも比較的安定しているという印象である。銀行の支店の中の様々な係数、貸出金の伸びや、預金などの統計を見ていると顕著にあらわれる。岐阜と愛知を比べると圧倒的に愛知のほうが伸び率も高く、経済規模が4倍ほどと言われており、そこは否定できないが、岐阜県の中で見ると、地域の力はかなり高いと認識している。

- ・愛知県の刈谷市は人口 20 万人もいってないはずだが、トヨタ系の上場企業が多数あり、財政として圧倒的な力を持っている。製造業中心のまちづくりになっているので教育レベルも高く、そこを求めて、大手上場企業で働く人たちがまた子育てをするので、また高学歴の子どもが出てきて、卒業してから戻ってくるというような好循環がある。そういう意味では、各務原市も比較的所得の高い層が多く住んでいる地域だと思う。クリニックの数もかなり多く、それなりのマーケットがあるということである。
- ・ここ数年は人口が減少傾向であるが、少子化が進んでいくと、どうしても岐阜県全体で人口地盤沈下というか、そういう傾向は止められない。そこは各市町村で人を取り合うのはどうなのかということを問題として考えなければいけない。
- ・各務原に住みたい人が多いというのは実感としてあるが、製造業における人手不足はかなり深刻になってきている。製造業と一言で言ってもいろんな仕事があるが、いわゆる職人さんが高齢化しており、若手がやりたがらないという問題に直面している。外国人の方を実習生として雇ったりというところで、これから労働人口、労働力を確保していこうと考えると、どうしても外国人というのは無視できない。これも視野に入れたまちづくりが必要となってくる。

【委員】

- ・暮らし委員会では、現在、各務野高校の情報科の課題研究授業を担当し、定期的に授業にメンバーが行っている。以前は大学に行って就職というのが当たり前だったが、今はもう高校卒業後、現場で働くことを意識している子たちも増えてきている中で、地域に就職するような体験を学校に在る間にできる場所があるというのは非常に良いと思っており、積極的にやっていきたい。
- ・まちづくりを考えるときに、最近では渋谷を VR で再現して没入できるメタバースというのがあるが、各務原でも技術的に可能であればメタバース化して、この建物を変えたら人の流れがこう変化するという実験ができれば面白い。
- ・金融に関して質問したい。人口が減少していくことに対して、本当にマイナスな出来事なのかと思っている。まちとしてちょうどいいバランスがあると思うが、高度経済成長期に人口が爆発的に増加し、それを理想として掲げているから今がマイナスに見えてしまうのではないか。もちろん人口が増えていくに越したことはないと思うが。その中で人口が少なくても、地域の中で経済が循環しているのか、どんどん外に出ていっているのかということは、銀行でわかるものか。

【委員】

- ・それは自治体のほうがよくわかるかと思う。税収とか。

【会長】

- ・預託率とか市内の預金等から融資や貸し出しの様子はどうか。

【委員】

- ・絶対量としては岐阜市の方が多いが、貸出金の伸び率などは各務原市限定で見ただけの方が高い。
- ・業種別に見ていくと、おそらく製造業ということになる。全体的にそれほど伸びてはいないが、その中で各務原市は相対的には奮闘していると感じる。

【会長】

- ・先ほど市から人口の推計、目標人口の数字が示されたが、市内の団地では、団塊世代の人が入って、その世代の人はいるが団塊ジュニアがいない。各務原市全体を見ると 40 代がいるが、その下の 30 代がいるところといないところがある。今度、川島地区でトークイベントを計画しているが、そこは家もどんどん売れており、若い人も子どももいる。イオンの南もそう。だから各務原市内といっても場所で違う。持続可能な形で人が維持できるコミュニティがどれだけつくれるか、それが各務原にとっては大問題だと思っている。

【委員】

- ・人口が減り続けているのは事実で、減るのがいいのか悪いのかはわからないが、ありがたいことに各務原市は子どもの人口はそれほど減っていない。学校の統廃合は全く起きておらず、その要因が何かはわからない。ただ、他市が羨むほどの施策がないのに、そういう世代がちゃんと各務原に残っているということは、各務原の魅力がそこには必ずあると感じている。
- ・八木山とか、鵜沼台とか高齢化が進んでしまって、岐阜県でも 1, 2 を争う高齢地域になっているが、逆に子どもたちが多いエリアが増えてきているというのは事実だと思うので、エリアごとに差が出ないようにうまくやっていくことが課題だと思っている。

【会長】

- ・さっきが話あったように、移住してくる人や戻ってくる人は結構いる。その人たちがどう見ているのか、ちゃんと聞くといいかもしれない。

【委員】

- ・先ほど話した「寄り合い」というイベントも来月 78 回目になるが、半分以上は市外、3 分の 1 は県外から参加する人がいる。それで移住を決めた方もいれば、移住したから来たという人もいる。今日意外だったのは、子育て世代に対する優遇が他の市より少ないというのは知らなかったが、それでも増えているのはすごいと感じた。それは、人なのか場所なのかわからないが魅力があるのだろうと思う。公園の近くに移住してくる人、この公園があったから住みたいと思ったという話もよく聞く。

【会長】

- ・若い方とか女性の方、子ども達など様々な人の声を聞きながらやっていくのがいいと思う。公園や学校があるという理由から住む場所を選ぶ方もいる。
- ・様々な団体が、お互いにマッチング交流会などオープンな形で話し合いができるといいと思う。

【委員】

- ・まちづくり推進課から依頼があり、担い手マッチング事業という、市内で活動している方々が登録して、横の繋がりづくりや、活動の後押しをする活動をしている。その中で、一步踏み出すきっかけをつくるセミナーが毎年あるが、今回僕を講師として選んでいただき、「寄り合い」という場でいろんな人が集まって、いろんなことが生まれてきたことについて、なぜそういうことが起きたかを伝えてほしいと依頼をいただいて、1月10日に交流会をする。そこでまた新しい繋がり生まれるきっかけになればいいと思っている。

【会長】

- ・岐阜市のメディアコスモスでも交流会などはたくさんやっている。各務原でもフリースペースの場をやるのもいいかもしれない。

【委員】

- ・今日の話を聞いて、行政側の立場から話をさせていただくと、最初のPTA、自治会に対して頑張ってくれる人が少なくなってきたことに対して、これまでの行政は、お金の投入や、施設を作ることによって課題解決をしてきたが、今回出した課題というのは、人の心の部分に鍵があり、それは行政では如何ともしがたい。無理やり自治会に入ってもらうことはできないため、我々もどうしたら課題を解決できるのかという話は興味深く聞いていた。
- ・企業の人材確保が難しいという話も、昔は一回就職したところに一生勤めるというのが前提だったが、今はそういう時代ではないので、無理やり机に座らせるということもできなくなってきた。それを行政で解決するのは難しいが、どうしたら解決できるかというと、暮らし委員会がやっているような、それそのものが楽しくないとやってくれないということだと思う。言い方は適当ではないかもしれないが、楽しければ「勝手に」盛り上がる。その楽しさが、その地域活動の中や企業の仕事の中でいかに実現できるかというのは、これからのキーワードではないか。
- ・楽しさは2種類あり、1つ目は消極的楽しさ、要は辛くないということ。自治会活動などの負担になっている部分の負担軽減というのはできるが、積極的楽しさというのは行政では如何ともしがたい。皆さんが横の繋がりや連携で、楽しさを見つけていただくことが重要だと思うが、我々も仕事として諦めているわけではなく、楽しさとか、エネルギーで充満している部屋に我々がライターで火をつけて爆発できるような起爆剤になって行きたいと思っている。ただ、肝心のエネルギーは皆さんからいただくものだと思うので、総合計画でうたっているつながりづくりがますます活発になっていただきたいと思っている。
- ・子育て施策が本市では足りてないというのは、誤解をおそれずに言えば、うちの市は平均的に全部やっており、ただ、突出した何かの無償化などは抑制的にするという方針としている。お金を使えばできるものではあるが、他の市より一歩先に出るのではなく、抜け落ちている部分がないよう、高い水準で平均的

にやっていくというスタンスであるため、そのあたりご理解いただければと思う。

【委員】

・例えば、高校卒業まで2万円配るとなれば、多くの若い子がくると思うのだが。

【委員】

・それで人が来るのもよいが、我々は、うちの市にそれ以外の魅力を感じて、定着していただきたい。何かが無償だから来るという状況では、ずっとお金を使い続けられないといけない。

【委員】

・人口減少に関するビジョンで、2060年に10万人になると予想されているところ12万人を目指していくというところで、企業では外国人の需要が増えているとのことだが、目標の12万人を達成したときの人口比率に関する方針はあるか。例えば、もともと地域にいた人が多い方がいいのか、1回出て帰ってきた人の割合が多い方がいいのか、外国人や県外からの移住者で増えていった方がいいのかなど、細かい人口に対するビジョンはあるのか。

【委員】

・おそらく外国人の数はどんどん増えていき、30、40年たつと人口の1割が外国人になるという話もある。ただ我々はどういう人に来てほしいかというより、外国人にも、ずっとここで育っている方にも、移住してきた方にも住みやすいと思ってもらい、自然の流れで外国人が増える、ここで育ってくれる、戻ってくれるとなればよい。うちの市が住みやすいと思ってもらえれば自然とそうなると思うので、住民がどういう方かというよりは、うちの市が選ばれる、人が来てくれる自治体を目指さなければならない。

【会長】

・美濃加茂市はすでに外国人が1割いるが、学校などで苦労した。共生というのも各務原市のこれからの大きなテーマなのかなと思う。
・いろいろとかなり自由に意見をいただき、アイデアや企画も出していただいたため、総合戦略でも、別の自由な形でもいいのかもしれないが、これから検討していければいいと思う。

【委員】

・一件ご案内ですが、先週の月曜日、浅野市長が弊社のスタジオに来て、マッチングアプリについて美濃加茂市長と一緒に対談をした。先週土曜日から放送が始まっているので、ぜひ見てほしい。こういったPRが私どもの会社の役割かなと思っている。

6 その他

【事務局】

・次回の会議の日程は来年1月を予定しており、会長のご予定を確認させていた

	だきながら決定いたします。 7 閉会 【会長】 ・以上をもって令和5年度第1回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会を終了する。
会議資料	資料1 しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会委員名簿 資料2 しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会の運営について（案） 資料3 しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会傍聴要領（案） 資料4 第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略改定の概要 資料5 第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略改定案 資料6 主な変更箇所一覧 参考資料1 しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会設置要綱 参考資料2 各務原市人口ビジョン
備考	